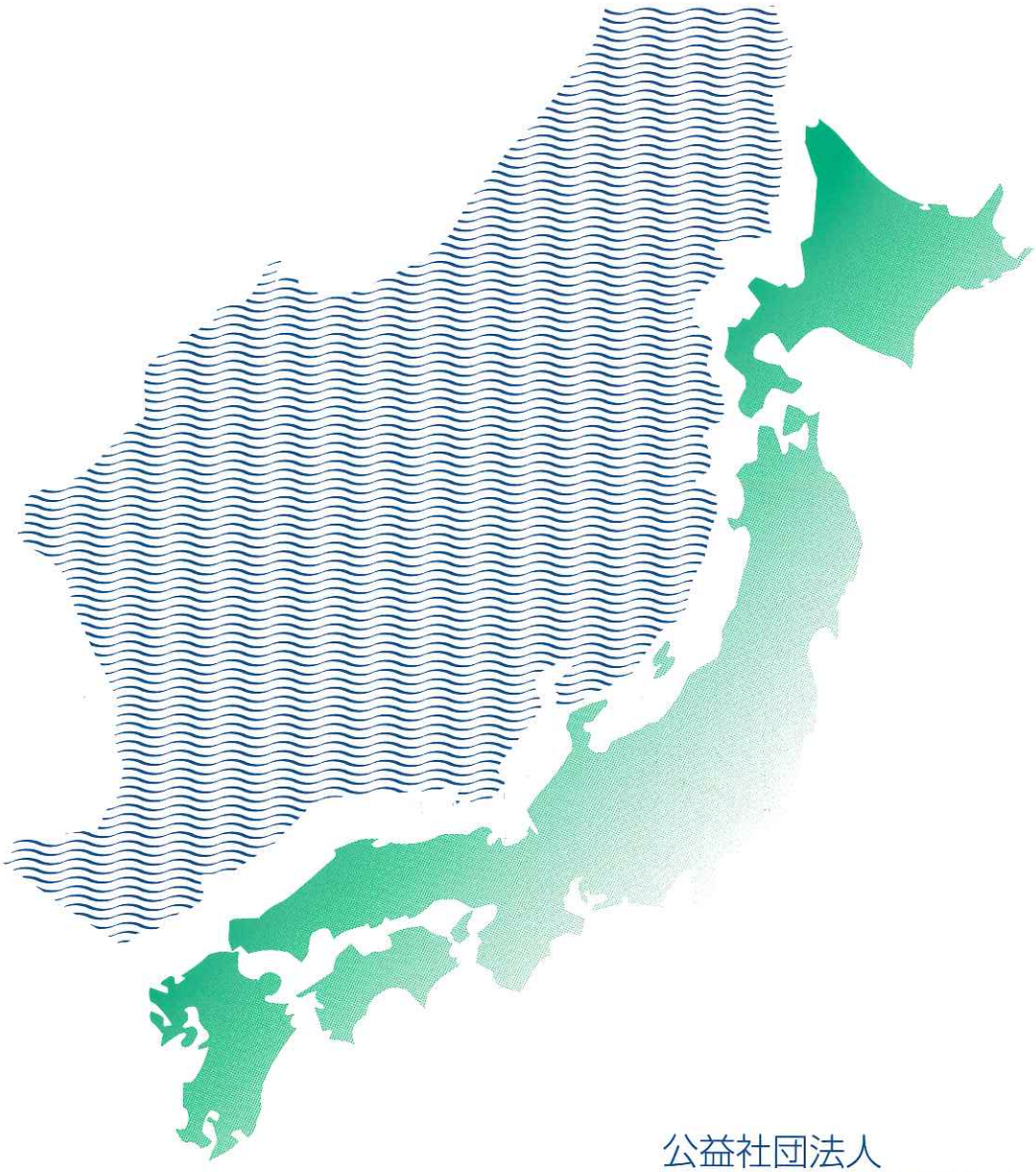
会報

第120号



公益社団法人
日本海海難防止協会

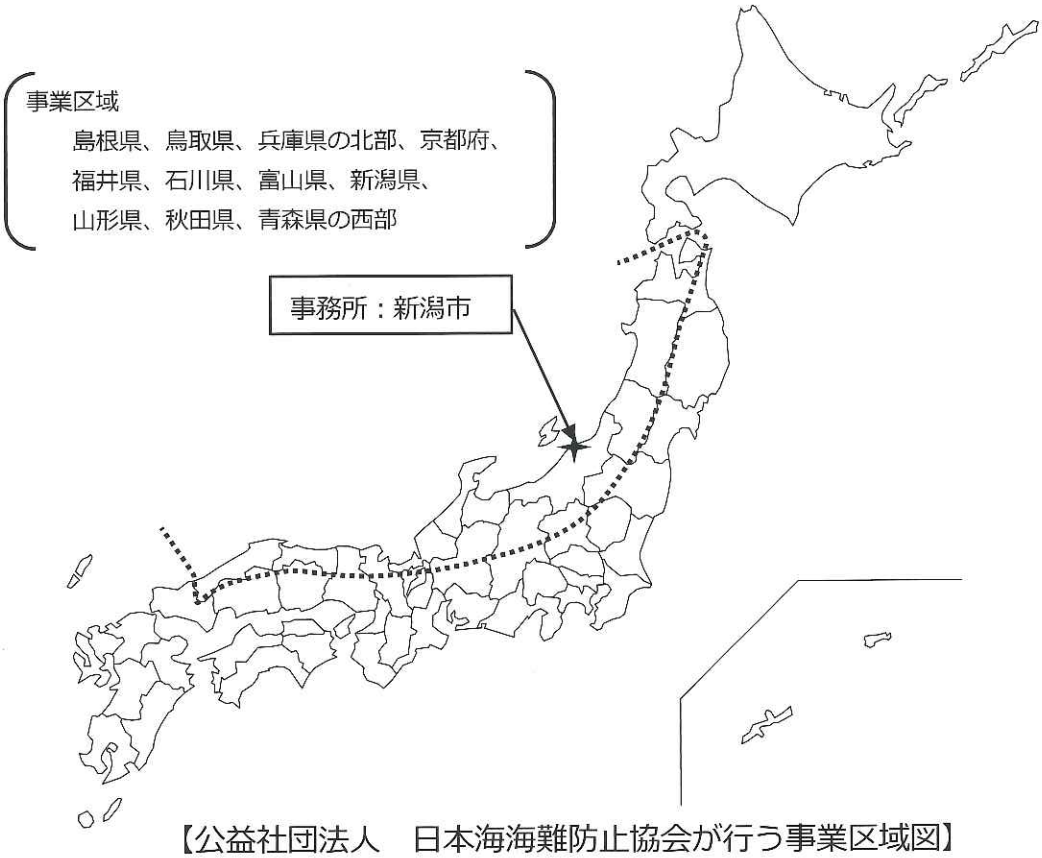
日本海海難防止協会は、本州日本海沿岸(山口県を除く)及び付近水域における、海上交通の安全に寄与するため、次の事業を行っております。

(1) 船舶の航行安全及び海難防止に関する事項の調査研究

(2) 船舶の航行安全に関する教育指導及び情報の提供

(3) 海難防止に関する事項の周知宣伝

(4) その他本協会の目的を達成するために必要な事業



【公益社団法人　日本海海難防止協会が行う事業区域図】

アクセス

○新潟駅(JR 信越線)から

徒歩　約 25 分、ﾀｸｼｰ利用　約 10 分、

ﾊﾞｽ利用　新潟交通　北ふ頭　約 20 分

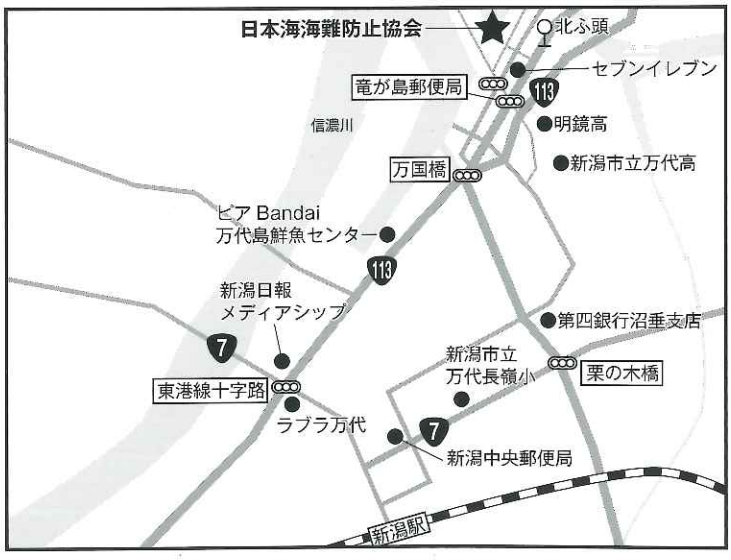
北ふ頭　停留所下車徒歩約 5 分

○新潟空港から

ﾀｸｼｰ利用　約 20 分、ﾊﾞｽ利用　北ふ頭　約 20 分

○車

国道 113 号線竜が島郵便局前交差点を左折直進、信号を一つ通過後右折し約 50m



目　　次

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究 1

１　浜田港大型客船入出港に係る航行安全調査 1

1-1　ビジュアル操船実験 1

1-2　作業部会 2

1-3　第２回委員会 2

２　日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究（青森県地区） 3

2-1　第２回委員会 3

３　浜田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査 4

3-1　第２回委員会 4

４　新潟港（東港区）大型客船入出港に係る航行安全調査 5

4-1　第１回調査会 5

５　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 6

5-1　第１回委員会 6

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　平成 28 年度第２回理事会 7

Ⅱ－２　業務日誌抄 9

Ⅱ－３　業務予定 10

Ⅲ　寄 稿 欄

舞鶴市の神様たち（鳴生神社） 11

青森港の海図が改訂されました 16

酒田港全域の測量を実施します 16

漁船セーフティラリーみちのく 2016 17

日本海及び陸奥湾における冬期海難防止対策について 19

Ⅳ　連 絡 事 項

☆ 会員名簿の変更 21

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究

１　浜田港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）　寺本　定美　海上保安大学校 名誉教授
奥田　・晴　国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校 名誉教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会 副会長
三浦　　徹　浜田港水先人
宮下　義重　浜田港運株式会社 取締役会長
村武　　潔　浜田港振興会 事務局長
（ 大屋　邦夫　浜田港振興会 事務局長　人事異動により委員交代 ）
（未定）　漁業協同組合ＪＦしまね
中垣　　健　山陰西部地区海洋レジャー安全対策連絡協議会 副会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部 交通部
浜田海上保安部
中国運輸局 島根運輸支局
中国地方整備局 港湾空港部
〃　境港湾･空港整備事務所
神戸税関浜田税関支署
広島入国管理局 松江出張所
神戸植物検疫所 広島支所浜田出張所
厚生労働省 広島検疫所
松江地方気象台
浜田市

1-1　ビジュアル操船実験

(1)　実 施 日：平成 29 年２月８日(水)～９日(木)
(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリンシミュレータ室

1-2　作業部会

(1)　開 催 日：平成 29 年３月 16 日(木)

(2)　場　　所：浜田市　島根浜田ワシントンホテルプラザ

(3)　議　　題：

①　第１回委員会の質疑・対応について

②　ビジュアル操船実験結果について

③　係留の安全性について

④　航行安全対策案について

1-3　第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 29 年４月 24 日(月)

(2)　場　　所：松江市　ホテル一畑

(3)　議　　題：

①　第１回委員会の質疑・対応について

②　入出港操船の安全性について

③　係留の安全性について

④　航行安全対策について

⑤　報告書構成案について

２　日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究（青森県地区）

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）　日當　博喜　　海上保安大学校 名誉教授

三浦　　完　　日本小型船舶検査機構　青森支部長

（ 石山　俊次　　日本小型船舶検査機構　青森支部長　人事異動により委員交代 ）

佐藤　芳彦　　青森県県土整備部　港湾空港課　港政グループ主幹

萩原　康輔　　青森港水先人会　水先人

赤石　憲二　　青森県漁業協同組合連合会　代表理事会長

髙橋　弘一　　青森県小型船舶安全協会　会長

佐藤　守幸　　ブルーオーシャンクラブ　会長

竹谷　博則　　十三湖マリーナ

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部 交通部

青森海上保安部

八戸海上保安部

東北運輸局　青森運輸支局

水産庁　仙台漁業調整事務所

青森地方気象台

青森県　農林水産部

2-1　　第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 29 年２月 16 日(木)

(2)　場　　所：青森市　ウェディングプラザ　アラスカ

(3)　議　　題：

①　アンケートによる実態調査について

②　平成 28 年（４～12 月）における海難防止活動について

③　小型船舶の安全対策について

④　調査・研究結果（報告書構成案）について

３　浜田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）	寺本　定美	海上保安大学校 名誉教授
	奥田　・晴	国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校 名誉教授
	久古　弘幸	一般社団法人日本船長協会 副会長
	三浦　　徹	浜田港水先人
	宮下　義重	浜田港運株式会社 取締役会長
	村武　　潔	浜田港振興会 事務局長
	（未定）	漁業協同組合ＪＦしまね
	中垣　　健	山陰西部地区海洋レジャー安全対策連絡協議会 副会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部 交通部
浜田海上保安部
中国運輸局 島根運輸支局
中国地方整備局 港湾空港部
〃　　境港湾・空港整備事務所
厚生労働省 広島検疫所
松江地方気象台
浜田市

3-1　第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 29 年３月 15 日（水）

(2)　場　　所：浜田市　島根浜田ワシントンホテルプラザ

(3)　議　　題：

①　第１回委員会質疑・対応及び補足事項について

②　航行の安全性について

③　航行安全対策について

④　報告書構成案について

4　新潟港（東港区）大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）　南　　清和　東京海洋大学　教授

池田　英治　海上保安学校　名誉教授

久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長

小坂　徳夫　新潟水先区水先人　会長

菅原　裕之　新潟港船舶代理店会　事務局

伊藤　則彦　日本海曳船株式会社　常務取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部 交通部

新潟海上保安部

北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所

新潟地方気象台

4-1　第１回調査会

(1)　開 催 日：平成 29 年３月 22 日（水）

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　議　　題：

①　大型クルーズ客船の入港計画について

②　調査・検討の計画（案）について

③　新潟港の現況について

④　航行環境について

⑤　操船に係る基礎検討について

⑥　数値シミュレーションによる検討について

５　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）　寺本　定美　海上保安大学校 名誉教授
遠藤　　真　富山高等専門学校　名誉教授
小島　　茂　一般社団法人日本船長協会 会長
上野　善洸　舞鶴水先区水先人会　会長
田端　昭則　飯野港運株式会社　常務取締役
久保　　勝　舞鶴倉庫株式会社　取締役舞鶴事業部長
小東　雅幸　日本通運株式会社　舞鶴海運支店長
原　　正朗　ジャパンマリンユナイテッド株式会社　舞鶴事業所
近江　喜彦　新日本海フェリー株式会社　舞鶴支店
菱田　　純　関西電力株式会社　舞鶴発電所計画課長
鍵本　房男　舞鶴曳船株式会社　代表取締役
西川順之輔　京都府漁業協同組合　代表理事組合長
山田　悦子　京都府小型船安全協会　事務局長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部 交通部
舞鶴海上保安部
近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所
京都地方気象台
海上自衛隊舞鶴地方総監部
舞鶴市産業振興部

5-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：平成 29 年３月 29 日（水）
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
①　大型クルーズ客船の入港計画について
②　調査・検討の計画（案）について
③　舞鶴港の現況について
④　航行環境について
⑤　操船に係る基礎検討について
⑥　操船シミュレーション方案について

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　平成 28 年度第２回理事会

１　開 催 日　　平成 29 年３月９日(木)

２　場　　所　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号

３　理事の現在数、出席者数

(1)　理事の現在数　　23 名

(2)　出席者数

出席理事　　14 名

監　　事　　1 名

４　議事次第

議　事

決議事項

第１号議案　平成 29 年度の事業計画書について

第２号議案　平成 29 年度収支予算書等について

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について

５　議事の経過及びその結果

(1)　定足数の確認

事務局から定款第 38 条に定める定足数を満たしている旨の報告がなされた。

(2)　議長及び議事録の署名

定款第 37 条の規定に基づき南波会長（代表理事）が議長となり、議事録の署名は定款第 42 条の規定に基づき、南波代表理事、髙橋監事とした。

(3)　議案の審議状況及び議決結果等

第１号議案

議長の求めに応じ、事務局から平成 29 年度事業計画書の説明が行われた。

議長が第１号議案の決議を求め、平成 29 年度事業計画書は出席理事全員異議なく原案のとおり決した。

第２号議案

議長の求めに応じ、事務局から平成 29 年度収支予算書等の説明が行われた。

議長が第２号議案の決議を求め、平成 29 年度収支予算書等は出席理事全員異議なく原案のとおり決した。

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について安藤専務理事及び事務局から報告がなされた。

Ⅱ－２　業務日誌抄

月　　日	内　　容
２月　８日(水) ～　９日(木)	浜田港大型客船入出港に係る航行安全調査　ビジュアル操船実験　(東京都)
２月 16 日(木)	日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究 (青森県地区) 第２回委員会　(青森市)
３月　９日(木)	平成 28 年度　第２回理事会　(新潟市)
３月 15 日(水)	浜田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査　第２回委員会 (浜田市)
３月 16 日(木)	浜田港大型客船入出港に係る航行安全調査　作業部会　(浜田市)
３月 22 日(水)	新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回調査会 (新潟市)
〃	平成 28 年度第４回船員災害防止連絡会議　(新潟市)
３月 28 日(火)	新潟開港 150 周年記念事業　設立総会　(新潟市)
３月 29 日(水)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回委員会　(舞鶴市)
４月 19 日(水)	平成28年度の事業報告及び決算の書類等の監査　(協会事務室)
４月 24 日(月)	浜田港大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回委員会　(松江市)

Ⅱ－３　業務予定

(1)　18 万㎥級モス型ＬＮＧ運搬船の直江津港入出港に係る調整会議
第１回調整会議　平成 29 年　5 月 10 日

(2)　平成 29 年度　第１回理事会　平成 29 年　5 月 17 日

(3)　平成 29 年度　事業推進連絡会議　平成 29 年　5 月 25 日

(4)　平成 29 年度　通常総会及び第２回理事会　平成 29 年　6 月　上旬

(5)　平成 29 年度　東北地方海難防止強調運動推進連絡会議　平成 29 年　6 月　7 日

(6)　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回委員会　平成 29 年　6 月　9 日

(7)　平成 29 年度　日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議　平成 29 年　6 月 13 日

(8)　18 万㎥級モス型ＬＮＧ運搬船の直江津港入出港に係る調整会議
ビジュアル操船実験　平成 29 年　6 月 14 日
～15 日

(9)　新潟港（東港区）大型客船入出港に係る航行安全調査　作業部会　平成 29 年　6 月 20 日

(10)　平成 29 年度　海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議　平成 29 年　6 月 20 日

(11)　日本海中部海域における簡易型ＡＩＳ普及に関する調査研究
（富山県・石川県地区）第１回委員会　平成 29 年　6 月 27 日

(12)　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　ビジュアル操船実験　平成 29 年　7 月　3 日
～４日

(13)　新潟港（東港区）大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回調査会　平成 29 年　7 月 11 日

(14)　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　作業部会　平成 29 年　8 月　3 日

(15)　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　第３回委員会　平成 29 年　8 月 22 日

(16)　18 万㎥級モス型ＬＮＧ運搬船の直江津港入出港に係る調整会議
作業部会　平成 29 年　8 月　下旬

(17)　会報第 121 号発行　平成 29 年　9 月　上旬

(18)　18 万㎥級モス型ＬＮＧ運搬船の直江津港入出港に係る調整会議
第２回調整会議　平成 29 年　9 月　上旬

Ⅲ　寄 稿 欄

舞鶴市の神様たち（鳴生神社）

元舞鶴事務所長　山本勝眞

若狭富士とも呼ばれる秀麗「青葉山」は、丁度フタコブラクダの背のように山頂が二つの峰に分かれています。西側の麓に西国三十三観音霊場の二十九番札所、松尾寺があり、このお寺は舞鶴市の市制下にありますが、二つの峰の山頂は、いずれも福井県の高浜町（若狭）に属しています。

舞鶴湾から望む青葉山

それぞれの峰に神様が祀られていまして、西峰（舞鶴市側）に祀られている方は「笠津彦尊（うけつひこのみこと）」と「笠津姫尊（うけつひめのみこと）」とおっしゃいます。

ところで「笠」は「かさ」とも読めますので、「陸耳御笠（くがみみのみかさ）」のことではないかと解説される方もいらっしゃいます。

さて、「陸耳御笠」が登場したところで、今回の本題に入っていきます。

舞鶴市最北端、若狭湾に突き出して「成生岬（なりゅう）」という岬があり、その岬から3キロメートルほど南に位置したところに、「成生」という小さな集落があります。

今回紹介する神社は、この成生集落の中心に鎮座する神社で、その名前は「鳴生（なりゅう）神社」といいます。

舞鶴東地区を東西に走る国道27号線（大門通）の「大門松島」交差点を北に折れ、府道21号線と府道561号線にそって北方にひた走り、約18キロほど車を進めていくとこの集落に行き当たります。

本地図は「地理院地図(GSI Maps)」を使用し、編集している。

東方に開いた漁港は、背面を高い山に囲まれ、冬の季節風を避けるには絶好といっていい場所にありますが、集落に至る経路の半分近くは急峻な山道で、立派な舗装道路がなければ、「ほんとにこの先に？」と不安さえ感じるようなところでもあります。

しかし、喧騒を離れた静かな成生。漁業中心の20所帯54人の小さな集落は、風光明媚で落ち着きのある、好感度抜群の地でもあります。

鳴生神社鳥居

その小さな集落に鎮座される今回の主人公は、集落の規模に比べ、「なぜ？」と思うほど大きくて立派な「鳴生神社」という神社なのです。

港から200メートルほど山の方（西方）に細い坂道を上ると、神社の境内がすぐに目に飛び込んできます。石造りの明神型鳥居（笠木部分の両端が上方に反りあがっている形の鳥居）があって、鳥居の後方両脇には、狛犬（唐獅子）が控え、その奥に大きな拝殿へと境内はつながっています。

拝殿の前にも、もう一対の狛犬がお互い向き合って座しています。

鳴生神社拝殿

そして、拝殿からは、さらにその奥の幣殿、本殿へと建物はつながっていきます。

鳥居には、文字は薄れてはいますが「鳴生神社」と書かれた木製掲額が掲げられおり、また、拝殿内部には金文字でやはり「鳴生神社」とかかれた掲額がかかっています。

拝殿の軒下周囲に、36歌仙でしょうか（？）肖像画の額がかけられているのも大変珍しい光景です。

ご本殿、拝殿ともに外周を風雨除けの鉄板囲いが施してあります。

拝殿屋根は、焼瓦葺き、本殿屋根は銅板葺きで、多くの他の神社で見られるような、千木や鰹木などはありません。

1374年、1379年、1758年、1910年（明治）と建替えの歴史があるようなので、明治の改築の折に、現在の屋根の形になったのかもしれませんね。

今回の取材中、漁協の事務所に立ち寄り、数冊の古い文献を見せてもらうことができました。

そこには、神社の由緒や、どなたがお祀りされているかが書かれていまして、ご祭神については「崇神天皇御代の皇子日子坐王（皇子）を祭祀する。」とあります。

拝殿内部

言い伝えるところ『十代崇神天皇の御代、当国志楽の郷（青葉山）の山中に、土蜘蛛※の陸耳御笠と言う者が、匹女と共に棲んでいて、人々を苦しめることから、天皇の弟皇子の日子坐王を派遣して征伐した。』といった物語があって、この地方に伝説としていろいろと話が残っているのですが、拝見した文献にもこの話とともに、日子坐王を祀ったという趣旨のことが書いてありました。

日子坐王が陸耳御笠を退治した話は古事記にも書かれており、ついでながら、古事記のこの部分、「崇神天皇四道将軍派遣」の記述を抜粋しますと。

『・・・又此之御代、大毘古命者、遣高志道、其子建沼河別命者、遣東方十二道而、令和平其麻都漏波奴人等。又日子坐王者、遣旦波國、令殺玖賀耳之御笠・・・。』

この一説の訳は、

『この（崇神天皇）御代、大毘古命を高志（北陸）に派遣し、天皇の子の建沼河別命を東方十二国に派遣して、（朝廷に）まつらわない（従わない）人たちを帰順させ、また日子坐王を丹波の国に派遣して玖賀耳之御笠を殺させた。』

というものです。

文頭に「笠津彦尊」と「笠津姫尊」の二柱の神様を紹介しましたが、伝説に登場する陸耳御笠という豪族が笠津彦尊で、匹女はその妻笠津姫尊であるのかもしれません。

昔、大江と舞鶴は加佐郡に属していましたがこの「加佐」も「笠」と呼び名は同じでして、この豪族の名前からきているのかも知れません。

諸々の話から、陸耳御笠は、大和朝廷から見れば、人々を苦しめる土蜘蛛ではありましたが、かなり広い地域を支配した、大物として君臨していたものとも考えられますね。

※「土蜘蛛」というのは、大和朝廷の支配に従わない地方の部族の総称で
背が低く洞穴に棲む者と卑下して称したもののようです。

しかし、陸耳御笠には、「御」という尊称がつけられており、また「耳」の文字がありますが、天照皇大神の御長男「天忍穂耳尊（あめのおしほみみのみこと）」という方がいらっしゃることを思えば、陸耳御笠とういう方も、この地方の勢力の強い豪族だった可能性も十分に考えられます。

拝殿、幣殿、本殿

現在、大浦半島（舞鶴湾の入口）関西電力の火力発電所がありますが、発電所の建設工事前の調査で「笠氏」の刻印のある９世紀頃の製塩土器が発見されたそうですから、崇神天皇の御代とは、ずいぶん時代が下るものの、笠氏と呼ばれる古代豪族が、ここに存在していたことは確かなようで、もしかして陸耳御笠の子孫かもしれません。

余談ですが、名前に「ミミ」が付く方は、南方系海洋民族の系統ともいわれており、天忍穂耳尊が天孫族の神様であることを思えば、関連があるのかもしれませんね。

天孫族（日向系）は南方系モンゴリアン族という説があり、私はこの説の信奉者です。

さて鳴生神社ですが、明治の前は、大将軍神宮という名前でしたが、明治になって現在の鳴生神社と改称されたとのことです。大将軍神宮の名は、前述のごとく崇神天皇の命を受けた日子坐王が、奈良朝廷に反抗する各地の勢力を平定するために派遣された四人の将軍の一人であったからではないかと思っていますが、このところは定かではありません。

鳴生神社の境内社には、これもかなり大物の神々が祀られています。

大穴持神（おおあなもちのかみ）（大己貴尊（おおなむちのみこと））、少彦名神（すくなひこなのかみ）、大山祇尊（おおやまつみのみこと）を祀る三柱神社（葛島神社）。

境内社葛島神社

武雷神（たけみかづちのかみ）、経津主神（ふつぬしのかみ）、天児屋根尊（あめのこやねのみこと）、天照皇大神をまつる吉田神社。

そして大川神社（祭神は保食神（うけもちのかみ）か？）などがそれです。

大穴持神は、出雲の国譲り神話の大国主尊の別称、少彦名神は、天孫族で出雲の経営に貢献、大山祇尊は瀬戸内海の大三島を根拠地とした水軍を率いた神様です。

また、武雷神（武甕槌尊）、経津主神、天児屋根尊のお三方は、奈良春日大社の御祭神で、出雲の国譲りの際の抵抗勢力であった、武御名方富尊を追放したことに代表される天孫族（風雅族）の軍神の方々です。

ちなみに、武御名方富尊は長野諏訪大社の御祭神です。

こうしたことから、小さな漁村に似つかわしくないほど規模が大きく、またあまり海や漁業にかかわりのない神々を祀った鳴生神社であります。

もちろん、神社創建時の６世紀ごろ？（崇神天皇の時代は３～4世紀といわれていますが･･･）現在のように成生に通じる陸路があったとは思えません。

当時の交通の主な手段は、舟であったと思われますから、海のそばの成生の地に、立派な神社があっても不思議ではありません。

現に、成生の隣集落の田井地区にも八幡神社、天満宮が、そしてさらに水ケ浦地区にも、立派な神社があります。

水ケ浦地区の天照皇大神社などは、現在でも陸路からのアプローチは難しく、地元集落の人たちは、船で神社に行くのだそうです。

青森港の海図が改訂されました

第二管区海上保安本部海洋情報部

海上保安庁は４月、青森港の海図を改訂しました。今回の改訂では、最新の測量成果を反映した他、図名を変更し、さらに従来の海図に比べて記載範囲を拡大する等の変更を加えています。これらにより、青森港を利用する船舶の航行がより安全になり、利便性も向上することになりました。

今後も引き続き港湾工事の進捗に伴う情報を採り入れるなど、海図の最新維持を進めていきます。

海図の概要

海図番号	海　図　名	縮　尺
W1191	青森港及付近 (分図)青森港	1/20,000 1/8,000

海図は、最寄りの水路図誌販売店又は取次店で購入できます。

海図の購入方法（水路図誌販売所）:（一財）日本水路協会の Web ページ

URL http://www.jha.or.jp/jp/jha/purchase/

酒田港全域の測量を実施します

第二管区海上保安本部海洋情報部

第二管区海上保安本部海洋情報部は、酒田港の海図の最新維持のため、本年７月から８月及び１１月から１２月にかけて、酒田港内全域及び周辺海域の測量を実施する予定です。

測量の詳細については、今後二管区水路通報等によってお知らせします。

漁船セーフティラリーみちのく 2016

第二管区海上保安本部交通部　安全対策課

海上保安庁では、船舶事故全体の約 8 割を占める漁船、プレジャーボート等の小型船舶の事故を減少させるための対策について重点的に取り組んでおり、東北の海を担任水域とする第二管区海上保安本部でも、様々な対策を講じているところです。

東北地方では、特に漁船の事故の占める割合が高く、船舶事故の 5 割近くを占めています。漁船の事故を減少させるためには、漁業者の方々が自ら事故を起こさないという安全意識を持っていただくことが大切です。このため、二管本部では、平成 28 年 10 月 1 日から 12 月 31 日までの間、福島県を除く東北 5 県において、漁業協同組合単位で参加し、漁業者相互の「安全操業」、「安全運航」の声かけや、漁業無線による呼びかけ、のぼりを掲示するなど、事故防止のための取組みを行い、期間中の無事故を競う「漁船セーフティラリーみちのく 2016」を開催しました。

この取組みは、平成 27 年から毎年開催しているもので、今回は、141 組合が参加し、このうち 129 組合が期間中の無事故を達成、さらに 105 組合は年間を通して無事故を達成しました。無事故を達成した組合には、海上保安部等から、無事故認定証を交付しました。

（認定証、活動状況写真等は次ページ）

期間中及び年間の無事故達成状況は、次のとおりです。

県名	参加団体数	期間中		年間	
		達成数	達成率（%）	達成数	達成率（%）
青森県	50	48	96	36	72
岩手県	27	23	85	19	70
宮城県	34	31	91	26	77
秋田県	22	21	96	20	91
山形県	8	6	75	4	50
計	141	129	92	105	75

無事故認定証

無事故認定証

○○県漁業協同組合
○○支所 殿

貴組合はこの度の漁船セーフティラリーみちのく2016において、刺網操業無事故を達成されました

これは承者から操業中の事故を起こさないとの強い決意のもと組合員一丸となって事故の防止に努められている結物であります

よってこの功績を称え無事故認定証を授与いたします

平成二十九年一月四日

○○海上保安部長　○○　○○

無事故達成証

のぼり

年間無事故認定証

年間無事故認定証

○○県漁業協同組合
○○支所 殿

貴組合はこの度の漁船セーフティラリーみちのく2016において、一年間無事故を達成されました

これは承者から操業中の事故を起こさないとの強い決意のもと組合員一丸となって事故の防止に努められている結物であります

よってこの功績を称え年間無事故認定証を授与いたします

平成二十九年一月四日

○○海上保安部長　○○　○○

年間無事故達成証

活動状況写真

新規加入漁協への「のぼり」配布（青森県）

自転車による漁協巡回（宮城県）

日本海及び陸奥湾における冬期海難防止対策について

第二管区海上保安本部交通部　航行安全課

東北地方の日本海沿岸域は、単調な海岸線が大半を占めており、西寄りの波や風に対する遮蔽物がないため、冬季には、西寄りの卓越した季節風の影響を受け、激しい波浪が来襲する特性があります。

このような状況から、平成 26 年度冬期、秋田県及び山形県の日本海沿岸や陸奥湾において、発達した低気圧に伴う海上荒天により、外国船３隻による乗揚げ海難が相次いで発生しました。

第二管区海上保安本部では、この種の海難を防止するため、平成 27 年から毎年 11 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの間、主に日本海を航行する貨物船、タンカーを対象として、最新の気象情報の早期入手、安全な海域への早期避難、錨泊自粛等の注意喚起及び荒天に備えた適切な対応に係る指導啓発等の、冬期の海難防止対策を実施しています。

（次ページにリーフレット）

【重点対策】

〇対象船舶

日本海沿岸及び陸奥湾内を航行する貨物船及びタンカー

〇実施内容

イ リーフレットを活用した訪船指導や海事関係者に対する啓発活動

ロ AIS メッセージ及び国際 VHF を活用して航行船舶に注意喚起

ハ AIS を活用した錨泊船の走錨監視

〇具体的な指導内容

イ 日本海の荒天を事前に把握するため、常に最新の気象情報の入手に努めること。

ロ 荒天時には早期に安全な海域へ避難すること。

ハ 陸奥湾内沿岸陸岸３海里以内の海域には多数の漁具が設置されているので接近しないこと。

冬期の日本海、荒天が予想されるときの航行・錨泊は危険！早期避難を！

☆ 平成２６年度、冬期日本海の荒天下、航行中に操船困難となり３隻の乗揚げ事故が発生！

☆ 過去１０年で１１隻もの大型貨物船が海難に遭遇！

平成２６年度に発生した３隻の乗揚げ海難！！

平成27年3月11日発生（秋田県）

平成26年12月22日発生（山形県）

平成27年3月11日発生（青森県）

上記海難事故には３つの共通点が！！

①冬期日本海は怖い！！！

・西寄りの季節風により
「暴風警報相当の気象条件が頻発」
・海上に遮蔽物が無いため
「安全な避泊地無し」
・猛烈な風浪で
「圧流された場合、乗揚げ回避が困難」

12月から3月にかけ、
○最大瞬間風速25m/s
○最大波高10m
の暴風警報相当の気象が何度も発生！

②こんな船舶が危険！！！

特に、空船状態や速力の遅い船！！！
風浪の影響を受けやすく、レーシングや圧流により、操船不能となる危険が！

③乗組員の認識不足！！！

乗組員は気象条件や日本海の特性を認識しない状態で日本海を航行し、乗揚げ海難を起こしています！

荒天が予想される場合には、

☆ 最新の気象海象情報を入手して安全な海域に行こう！

☆ 日本海に入らず、安全な海域で待機しよう！

☆ 沿岸での錨泊を避け、早く安全な海域に避難しよう！

JCG 第二管区海上保安本部

Ⅳ　連 絡 事 項

☆ 会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。（平成 29 年 4 月 25 日届出分まで）

○　指定代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
1	電源開発㈱	大間原子力建設所所長 萩　原　　修	大間原子力建設所総務グループ課長 倉　林　伸　一
〃	秋田曳船㈱	代表取締役社長 西　宮　公　平	業務課係長 湊　屋　太　門
〃	秋田海陸運送㈱	代表取締役社長 西　宮　公　平	営業次長 丸　山　　司
〃	秋田港振興会	会　長 三　浦　廣　巳	総務企画部企画振興課主事 伊　藤　佳　徳
〃	秋田製錬㈱	代表取締役社長 岡　部　忠　久	生産管理部部長 芝　地　　豊
2	秋田石油備蓄㈱	男鹿事業所取締役所長 石　塚　静　夫	男鹿事業所環境安全課課長 五十嵐　　良
〃	広洋産業㈱	代表取締役 佐　藤　　均	業務課長 佐　藤　久　志
3	日本製紙㈱	秋田工場長 吉　田　彰　彦	秋田工場事務部長代理 宇　野　剛　正
〃	宇部三菱セメント㈱	東北支店取締役支店長 佐　藤　　寛	東北支店物流・施設グループ課長補佐 木　下　裕　紳
4	㈱みなと	代表取締役社長 鈴　木　良　博	取締役営業部長 笹　村　　司
〃	山形県機船底曳網漁業協議会	会　長 飛　塚　裕　実	指導課長 佐　藤　　健
〃	山形県漁業協同組合	代表理事会長 五十嵐　安　哉	指導課 黒　石　博　良
〃	ＥＮＥＯＳグローブガスターミナル㈱	新潟ガスターミナル所長 福　田　一　郎	五十嵐　紀　子
5	国際石油開発帝石㈱	国内エネルギー事業本部 直江津ＬＮＧ基地所長 新　川　　潔	国内エネルギー事業本部 直江津ＬＮＧ基地操業グループマネージャー 本　永　晃　弘
〃	新日本海フェリー㈱	新潟支店取締役支店長 小　向　秀　治	調査役 木　村　一　美
6	全農サイロ㈱	新潟支店支店長 満　留　広　一	新潟支店営業部 浅　澤　直　樹

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
6	㈱谷村開発	代表取締役 梅　澤　敏　幸	取締役業務部長 日　馬　勇　人
〃	東亜建設工業㈱	北陸支店支店長 日　野　雅　博	北陸支店安全環境室長 八　川　勝　志
7	直江津港湾協会	会　長 村　山　秀　幸	事務局長（上越市産業観光部産業立地課長） 小　山　隆　久
〃	新潟県漁業協同組合連合会	専務理事 清　田　邦　之	参　事 田名部　和　宏
〃	日本海洋石油資源開発㈱	新潟鉱業所所長 本　間　　章	新潟鉱業所ＨＳＥグループ長 久　住　　豊
8	姫川海陸運輸㈱	代表取締役 木　島　吉　三	取締役部長 木　島　善　吉
〃	姫川港利用者協議会	会　長 平　野　秀　樹	事務局長 原　　豊
〃	北越物流㈱	代表取締役社長 村　上　　博	東港チップ事業所所長 井　上　喜美彦
〃	北部日本海まき網漁業協議会	船主部会部会長 及　川　　晋	船主部会事務局 太　田　　昇
9	㈱和田商会	取締役社長 和　田　晋　弥	石油営業部次長 阿　部　隆　介
〃	㈱ＭＯＬマリン	代表取締役社長 山　田　福　市	
〃	㈱商船三井	常務執行役員 加　藤　雅　徳	海上安全部長 遠　藤　　充
10	（公社）日本海難防止協会	会　長 工　藤　泰　三	総務部長 笠　間　貴　弘
〃	高岡水曜会	日本重化学工業㈱ 常務取締役高岡事業所長 藤　田　正　樹	日本重化学工業㈱ 高岡事業所管理Ｇ係長 前　川　　勝
〃	竹中産業㈱	富山港油槽所所長 津　幡　俊　男	次長 中　田　浩　司
〃	富山県漁業協同組合連合会	代表理事会長 尾　山　春　枝	参　事 佐　丸　樹　人
〃	富山港振興協議会	会　長 森　　雅　志	主　査 十文字　明日香
〃	伏木海陸運送㈱	代表取締役社長 川　西　邦　夫	取締役総務部長 林　　延　佳
11	北陸海事㈱	取締役社長 川　西　邦　夫	林　　正　晃
〃	石川県漁業協同組合	代表理事組合長 笹　原　丈　光	企画指導部長 青　山　邦　洋

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
11	㈱金沢港運	代表取締役社長 堀　岡　修　次	取締役統括部長 左　古　信　也
〃	金沢港北地区特別防災区域協議会	会長（アストモスエネルギー㈱金沢ターミナル所長） 野　沢　博　樹	共同防災センター所長 西　　勝　広
〃	共和鉄工㈱	代表取締役社長 長　岩　剛　志	総務課 長　岩　康　子
12	七尾海陸運送㈱	取締役社長 大　森　信　夫	専務取締役 川　島　光　雄
〃	七尾港整備・振興促進協議会	会　長 大　林　重　治	総務課長 大　星　　聡
〃	北陸曳船㈱	代表取締役社長 国　光　秀　彦	海務部長 白　井　宏　文
13	福井県漁業協同組合連合会	代表理事会長 平　野　仁　彦	参　事 中　川　浩　一
〃	福井港石油基地管理委員会	代表幹事（ジャパンオイルネットワーク㈱福井油槽所所長） 塩　屋　畩　盛	
14	金下建設㈱	代表取締役社長 金　下　昌　司	取締役土木部長 芦　原　寿　彦
〃	京都府漁業協同組合	代表理事組合長 西　川　順之輔	総務部長 松　尾　信　一
〃	ジャパンマリンユナイテッド㈱	常務執行役員商船事業本部 舞鶴事業所長 梶　原　正　也	管理部総務人事グループ 総務チーム長 竹　田　司　朗
〃	丹後海陸交通㈱	代表取締役社長 小　倉　信　彦	総務部総務課長 光　田　　寿
〃	舞鶴曳船㈱	代表取締役 鍵　本　房　男	船舶部部長 藤　田　一　徳
15	但馬漁業協同組合	代表理事組合長 眞　野　　豊	参　事 磯　田　俊　一
16	境港海陸運送㈱	代表取締役社長 後　地　良　樹	海運事業部昭和町事業所長 眞　木　　崇
〃	鳥取県漁業協同組合	代表理事組合長 景　山　一　夫	漁政指導部長 前　嶋　　宏
17	中国電力㈱	取締役社長 清　水　希　茂	電源事業本部 燃料計画グループ副長 塚　田　明　正

○　代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	代表者職氏名	担当者職氏名
19	ＥＮＥＯＳグローブガスターミナル㈱ 青森ガスターミナル	所　長 金　谷　剛　樹	業務グループリーダー 渋　谷　将　子
〃	東西オイルターミナル㈱青森油槽所	所　長 中　村　考　二	
〃	日本通運㈱秋田港支店	支店長 柏　屋　　敬	課　長 平　野　生　将
〃	東北電力㈱新潟火力発電所	所　長 武　田　浩　佳	運営企画課長 畠　中　壮　志
〃	日本通運㈱富山支店富山港事業所	富山港事業所長 森　本　光　信	富山支店業務課 堀　岡　俊　宏
20	ＥＮＥＯＳグローブガスターミナル㈱ 七尾ガスターミナル	所　長 畑　　武　義	所長代理 堀　　誠
〃	太平洋セメント㈱中部北陸支店	支店長 諸　角　富美男	北陸セメント営業部 城　野　耕　治
〃	東洋建設㈱北陸支店	執行役員支店長 伊　藤　史　朗	工事部長 中　村　　武
〃	中国電力㈱島根原子力発電所	所　長 北　野　立　夫	総務課長 森　田　廣　美

○　会社・団体名等の変更

頁	（旧）　会　社・団　体　名	（新）　会　社・団　体　名
2	ＪＸエネルギー㈱	ＪＸＴＧエネルギー㈱
19	日本通運㈱富山港支店	日本通運㈱富山支店富山港事業所

○　住所等の変更

頁	会　社・団　体　名	住　　所
10	高岡水曜会	〒933-8505 高岡市吉久一丁目１番 145 号 日本重化学工業㈱高岡事業所内
〃	富山新港港湾振興会	〒939-0292 射水市小島 703 番地 射水市役所大島分庁舎港湾・観光課内
12	七尾港整備・振興促進協議会	〒926-8642 七尾市三島町 70 番地の１ 七尾商工会議所内

頁	会　社・団　体　名	住　　所
13	福井港石油基地管理委員会	〒913-0038 坂井市三国町新保 96 字三里浜１－６ ジャパンオイルネットワーク㈱福井油槽所内

○　電話及びＦＡＸ番号の変更

頁	会　社・団　体　名	電　　話	ＦＡＸ
5	国際石油開発帝石㈱	025-545-2198	025-545-2359
10	高岡水曜会	0766-21-0601	0766-25-7043
〃	富山新港港湾振興会	0766-51-6676	0766-51-6691
12	七尾港整備・振興促進協議会	0767-54-8888	0767-54-8811
13	福井港石油基地管理委員会	0776-82-3465	0776-82-5406
14	丹後海陸交通㈱	0772-42-0326	0772-42-0349

「気くばりは　船にも　海にも　天気にも」

「海難は　無理と　あせりと　油断から」

会　　報　　第１２０号

平成29年５月発行

発 行 所　新潟市中央区竜が島１丁目９番２号
公益社団法人　日本海海難防止協会
〒950－0072
電　話（025）247－8531
ＦＡＸ（025）247－0316
E-mail　nikkaikb@poem.ocn.ne.jp
URL　　http://nikkaikb.com/
印 刷 所　株式会社 ウィザップ